

株式会社バルクホールディングス 2021年3月期 決算補足資料

2021年5月14日

Contents

【2021年3月期連結業績等】

連結決算のポイント	4
主な取り組み状況等	6
連結P/L 概要	7
連結B/S 概要	8
セグメント別業績	9
連結業績推移	10
2022年3月期通期連結業績見通し	11
サイバーセキュリティ分野の主な実績及び今後	12
サイバージム社とのグローバルでの共同事業戦略の見直し	14
投資先の状況	15

2021年3月期 連結業績等

2021年3月期連結決算のポイント①

◆売上高は1,468百万円（前期比+115百万円、+8.5%）

マーケティングリサーチ及びセキュリティトレーニングにおいて、新型コロナウイルスの影響を受けたものの、セキュリティ認証コンサル、AI脆弱性診断、セールスプロモーションが堅調に推移。第4四半期に予定していたトレーニング施設販売は、新型コロナウイルスの影響に鑑み次期に変更。

◆営業損失は304百万円（前期比+263百万円）

セキュリティ認証コンサル、AI脆弱性診断、セールスプロモーションは堅調に推移。

米国の体制変更に伴い、海外におけるセキュリティ事業のコストを大幅削減(ロックダウンによりトレーニング開催不可)。

次期は国内に集中。

国内・海外セグメント	売上高	営業利益
セキュリティ事業	607	▲103
国内	607	90
海外	0	▲193

◆投資有価証券の減損処理について

当社が保有する投資有価証券(CyberGym Control Ltd. 及びAerNos,inc.)について2021年3月末時点で全額減損処理を実施。

両社ともに、コロナ禍によるプロジェクトの延期・延長を主な要因とし、投資時の事業計画と足元の業績が乖離していること、コロナの終息が見えない中、将来の不確実性が継続していることを踏まえ、財務健全性の観点から全額減損処理を実施。

一方で、両社の事業自体はパイプラインも増加し着実に進捗。
参照:P16・P17「投資先の状況」

◆CYBERGYMトレーニング

- ▶ 日米において官公庁・大手企業など含め延べ400社以上の企業が受講
- ▶ CYBERGYM東京アリーナは、新型コロナウイルスの影響により5月末日まで休止
6月以降稼働を再開し、多くのカスタマイズトレーニングを実施
- ▶ クラウド型サブスクリプションモデルのeラーニングメニューを開発・提供開始
(成長戦略における中核ソリューションとして今後、順次プログラムを拡充)

◆CYBERGYMトレーニングの販売パートナー契約状況

- ▶ (株)テクノプロ、(株)インターネット総合研究所、(株)ソリトンシステムズ、扶桑電通(株)、(株)昌新、(株)富士通ラーニングメディア、(株)クロスポイントソリューション、ニュートラル(株)、(株)アイ・ラーニングなどに拡大

◆脆弱性診断『ImmuniWeb®AI Platform』の提供実績

- ▶ 2021年3月までに600件超の診断実績

◆ソーシャルメディアソリューションサービスの展開

- ▶ クラウド型分析ツール『AIGENIC®(アイジェニック)』を活用したインスタリサーチの展開を開始
- ▶ LINEリサーチとの共同自主調査を実施

連結P/L概要

◆売上高

セキュリティ事業・マーケティング事業ともに前期比増収となったものの、第4四半期に計画していたトレーニング施設販売の期ずれが大きく影響し、通期予想に対しては未達

◆販管費

海外セキュリティ事業における経費が大幅に削減されたことで、前期比17.3%減少

◆各段階利益

トレーニング施設販売の期ずれ、海外セキュリティ事業の損失が与えた影響が大きく、前期比では営業利益において263百万円改善したものの、通期予想に対しては未達

(単位：百万円)

(連結)	2021/3月期			2020/3月期	2021/3月期 通期予想数値
	金額	増減額	前年同期比	金額	金額
売上高	1,468	+115	108.5%	1,353	1,706
売上総利益	495	+96	124.1%	399	—
販管費	800	▲167	82.7%	967	—
営業損失(▲)	▲304	+263	—	▲567	14
経常損失(▲)	▲325	+810	—	▲1,135	6
親会社株主に帰属する 当期純損失 (▲)	▲434	+886	—	▲1,320	4

連結B/S概要

<前期末比>

- ◆流動資産 : 現預金が36百万円、受取手形及び売掛金が28百万円増加したことなどにより105百万円の増加
- ◆固定資産 : 米国アリーナ資産譲渡による工具器具備品・サイバーセキュリティ施設運営権の減少、投資有価証券評価損の計上などにより377百万円の減少
- ◆流動負債 : 未払金の減少などにより201百万円の減少
- ◆純資産 : 第5回・第6回新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ187百万円増加した一方で、当期純損失434百万円を計上したことなどにより68百万円の減少
- ◆自己資本比率 : 以上の結果、自己資本比率は0.6ポイント減少

(連結)	2020/3月末	2021/3月末		
	金額	金額	増減額	前期末比
流動資産	393	498	105	126.7%
固定資産	518	141	▲377	27.2%
繰延資産	21	7	▲14	33.3%
総資産	934	646	▲288	69.2%
流動負債	603	402	▲201	66.7%
固定負債	131	113	▲18	86.3%
純資産	198	130	▲68	65.7%
自己資本比率	20.6%	20.0%	▲0.6%	—

セグメント別業績

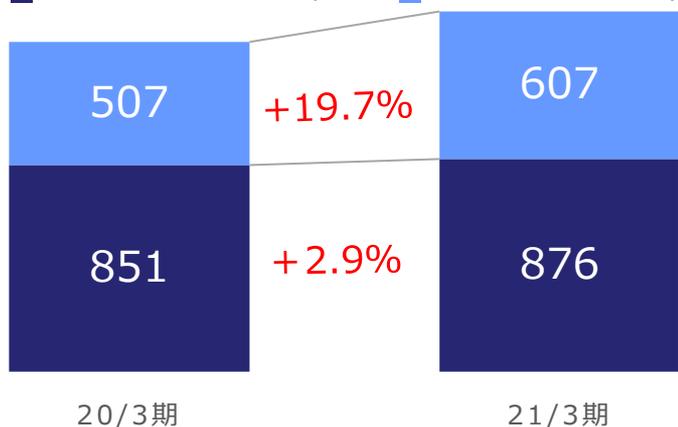
◆セキュリティ事業

- ・国内においては、セキュリティ対策ニーズの高まりを受け、AI脆弱性診断などのサイバーセキュリティ分野の売上が増加、情報セキュリティ規格のコンサルティング売上も堅調に推移
4Qに計画していたトレーニング施設の販売を次期に変更
- ・海外においては、ロックダウン以降営業活動を行うことが出来ず、費用のみを計上

◆マーケティング事業

- ・マーケティングリサーチ部門は、新型コロナウイルスの影響による顧客の予算削減、プロジェクト延期等の影響を大きく受けたが、LINEリサーチを活用したサービスの提供や、大学案件の新規獲得により通期ではリカバー
- ・セールスプロモーション・広告代理部門は、主要顧客である大手スーパーマーケットや大手食品メーカーからの売上・受注が引き続き堅調に推移

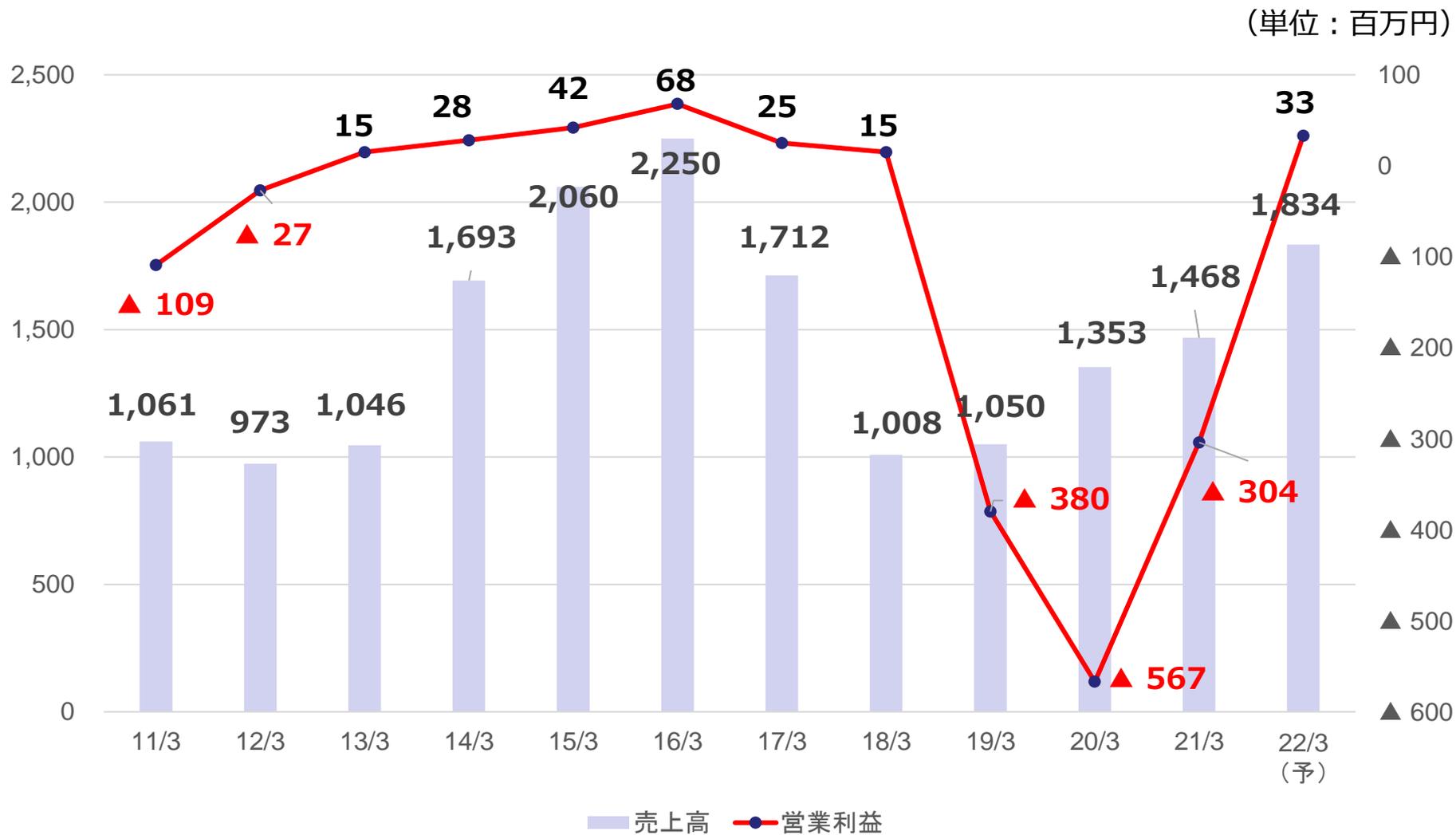
■ マーケティング事業 ■ セキュリティ事業



(単位: 百万円)

セグメント別業績	売上高	営業利益
セキュリティ事業	607	▲103
内 国内	607	90
内 海外	0	▲193
マーケティング事業	876	56

連結業績推移



※18/3期における売上高の前期比大幅減は子会社2社（住宅関連事業、IT事業）の売却による

2022年3月期通期連結業績見通し

セキュリティ事業においては、セキュリティトレーニング、脆弱性診断サービスとも、市場のさらなる拡大傾向を踏まえ、順調な事業拡大を想定。

セキュリティ認証コンサルにおいても、強固な事業基盤により堅調な推移を見込む。

海外事業の譲渡が完了したことで、海外事業で計上していた費用がなくなり、セキュリティ事業全体において、大きく収支が改善する見込み。

マーケティング事業においては、セールスプロモーションにおいて、強固な事業基盤により堅調な推移を見込む。

マーケティングリサーチは、前期から取り組みを開始したSNS支援事業を、さらに拡大させることを想定、ソーシャルメディアソリューションサービスを成長させるためグループ内組織変更を実施。

(単位：百万円)

(連結)	2022/3月期			2021/3月期
	金額	増減額	前年同期比	金額
売上高	1,834	+366	124.9%	1,468
営業利益	33	+337	—	▲304
経常利益	12	+337	—	▲325
親会社株主に帰属する 当期純利益	8	+442	—	▲434
1株当たり当期純利益	0.72円	+41.66円	—	▲40.94円

サイバーセキュリティ分野の主な実績及び今後①

◆サイバーアリーナの提供・運営支援

- ▶CYBERGYM八重洲アリーナ（2020年11月開設）

運営主体 （株）クロスポイントセキュリティジム（2020年10月設立）※

※(株)クロスポイントソリューションとの合併会社、持分法適用関連会社

- ▶CYBERGYM大阪（2021年第1四半期中にトレーニング開始予定）

運営主体 サイバーコマンド(株)※

※主な株主 DXHR(株)

- ▶2022年3月期初旬に、中部エリアにおいて新規オープンを予定。

- ▶2022年3月期初旬に、東京データセンターをオープン予定。

東京のトレーニングセンターをフル・ファンクシヨンにアップグレード。東京から国内外の複数拠点へのトレーニング提供が可能となる。機能拡大に加え、コロナ禍の影響やイスラエル情勢悪化など、地政学的リスクが高まった際のBCPとしても期待。

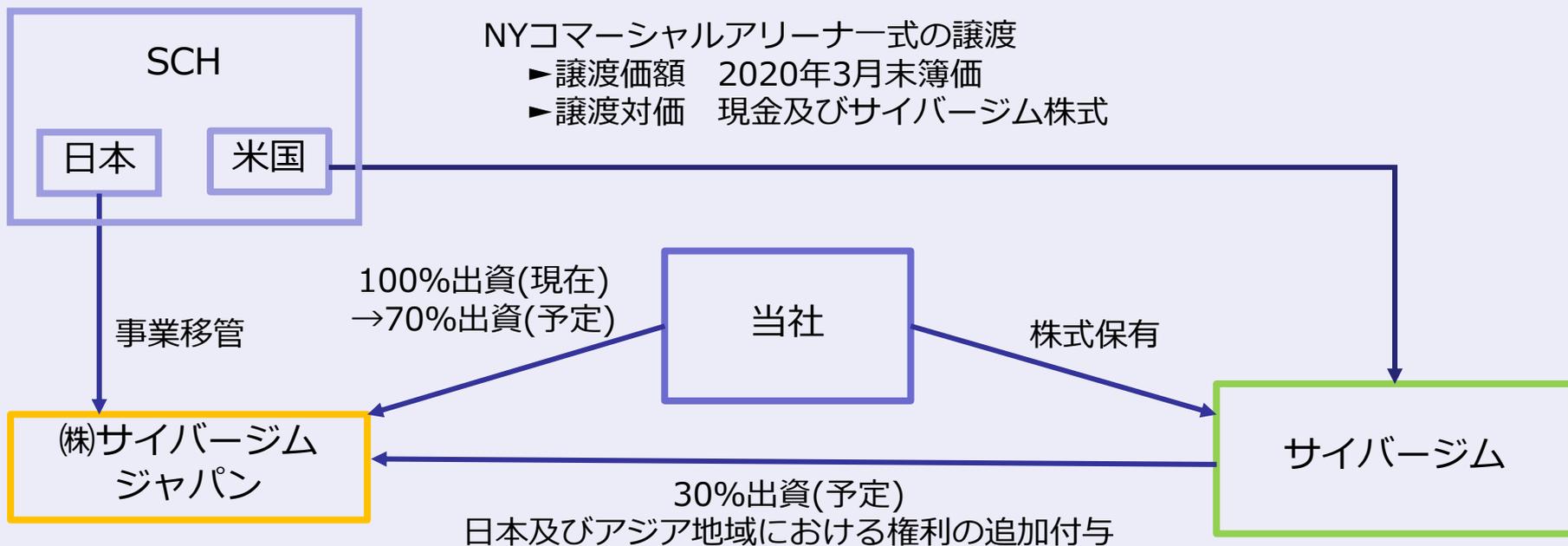
◆サイバーセキュリティトレーニング

- ▶ Cyber Defense Essentialsオープン講座（毎月1回）
- ▶ CYBERGYM'S Zero to Heroプログラム、組織内レッドチーム構築プログラム
- ▶ OT/IoT向けトレーニング、セキュア開発トレーニング
- ▶ クラウド型サブスクリプションモデルのeラーニングを開発・提供
- ▶ オンデマンド形式によるハイブリッド型トレーニングを提供

◆サイバーセキュリティ関連のその他ソリューション

- ▶ NIST（米国セキュリティ基準）対応支援サービスを提供
- ▶ SOC（セキュリティ監視センター）サービスを提供
- ▶ cybereasonEDR（Endpoint Detection and Response）を提供
- ▶ スマホアプリ簡易脆弱性診断サービスを提供開始
- ▶ 企業情報モニタリングサービス『Discovery』を提供開始
- ▶ セキュア開発コンサルティングを提供

◆サイバージム社との間で覚書等を締結（2020年6月2日、12月30日公表）
 米国でのセキュリティトレーニング事業展開のために保有するライセンス・設備等の譲渡、日本国内での合併会社設立



- ▶SCH社の米国部門における固定費の大幅削減、日本及びアジアにおける権利強化
→迅速な業績の改善と成長の実現
- ▶譲渡対価の一部としてサイバージム社株式を取得
→サイバージム社への出資比率を高めることで、中長期的なリターンを享受
- ▶サイバージム社は中核拠点として米国でアリーナを保有・運営

投資先の状況 ~CyberGym Control Ltd. (イスラエル) ~

▶サイバーアリーナをグローバルで展開

- ・イスラエル、チェコ、ポルトガル、リトアニア、オーストラリア、アメリカ、日本、南アフリカ、オランダ等にアリーナを開設
- ・イスラエル、日本、オーストラリアを中核拠点とし、コロナ禍においてもリスク分散を図る
- ・東南アジア、欧州、中米、中東でのアリーナ開設を準備中

▶イスラエル電力公社 (IEC) 及びイスラエル最大手金融グループのハポアリム銀行と当社が主要株主

- ・上記2つのイスラエル・トップカンパニーとの緊密な連携により、産業系・金融系幅広いセクターでのノウハウに裏付けされた最先端の技術をベースに市場シェア拡大中
- ・各国政府・政府系機関、プライベートセクター両方から高い評価を受け、採用実績を積み上げている

WCWA (World Cyber Warfare Arena)



日本はグローバルの中核拠点の一つ

CYBERGYM

<https://www.cybergym.com/>



<https://www.aernos.com/>

カーボンナノチューブを用いたMEMSに高度なデータサイエンス技術を組み合わせることで、空気中などにある様々な種類のガスをリアルタイムで同時に検知する極小かつ高精度なナノガスセンサーを開発販売

▶ NRE(受託開発)の進捗

新型コロナウイルスの影響で、医療メーカーとのプロジェクトに関しては、顧客側が当面現状のコロナ対策を優先

一方で、大手電機メーカー向けプロジェクトのNREが開始、一部は検収も完了

オイルガスセクター向けプロジェクトのNREも開始。その他、幅広いセクターからの開発ニーズに対応中

▶ 出荷の進捗

医療メーカー向けの出荷に加え、精密機器メーカーに対してのプロダクト出荷が今年の3月からスタート。検証と並行しながらの販売だが、出荷は増加傾向

▶ データ提供のビジネスモデル

様々なアプリケーション向けのプロダクト開発・販売に加え、

プロダクト販売+データ解析というビジネスモデルを採用することで、長期的な安定収益を目指し、データ解析による付加価値を追求

「CES」 Innovation Awards 3年連続受賞！

【 AerNos AerHome 】

世界最大級の先端テクノロジー見本市「CES2021」

Innovation Awards (Sustainability, Eco-Design & Smart Energy部門)

【 AerNos AerSIP 】

スマートデバイス等の組み込み用センサー

CES2019 Innovation Awards (Tech for a Better World・Embedded Technologies部門)

【 AerIoT 】

空気清浄機、エアコン、スピーカー、街灯等の組み込み用センサー

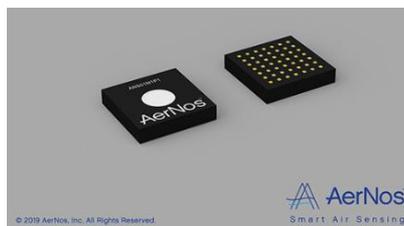
CES2019 Innovation Awards (Tech for a Better World部門)

【 AerBand 】

高血糖及び低血糖の症状を検出するウェアラブルセンサー



AerNos AerHome



AerNos AerSIP



AerIoT



AerBand

本資料に記載されている当社の予想、見通し、目標、計画、戦略等の将来に関する記述は、本資料作成の時点で当社が合理的であると判断する情報に基づき、一定の前提（仮定）を用いており、マクロ経済動向及び市場環境や当社グループの関連する業界動向、その他種々の要因により、実際の業績はこれらの予想・目標等と大きく異なる可能性があります。

当社は、これらの将来の見通しに関する事項を常に改定する訳ではなく、またその責任も有しません。

なお、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

I R 及び本資料に関するお問い合わせ

株式会社バルクホールディングス
IR担当

TEL : 03-5649-2500